

新潟空港の明日を考える

新潟空港講演会 2008

主催者挨拶

新潟空港 3000 メートル滑走路建設促進規制同盟会会長

社団法人新潟県商工会議所連合会会頭 敦井 榮一 氏

「新潟空港の明日を考える・新潟空港講演会 2008」の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。本日は大勢の皆様からこの講演会にご参加をいただき、誠にありがとうございます。皆様には日ごろから新潟空港をご利用いただくとともに、空港の整備促進にご理解とご支援をいただいておりますことを、この場をお借りいたしまして厚く御礼を申し上げます。

新潟空港は平成 8 年に 2500 メートルの滑走路が整備され、平成 10 年には国際定期路線が相次いで就航し、日本海側有数の国際空港として発展してまいりました。平成 19 年には欧州などへの乗り継ぎ利用が拡大したソウル便、新潟空港の特徴的な路線であるハルビン線およびウラジオストック線におきまして利用者数が過去最高を記録したところです。

今後、さらなる経済のグローバル化や国際交流が進展する中で、新潟空港が新潟県及び周辺の地域に果たす役割はますます重要になってくると考えます。現在新潟空港の滑走路は 2500 メートルですが、私どもといたしましては、人、物、情報が新潟と世界で直接行き交うことができる 3000 メートル滑走路の早期実現を目指し、民間主導の建設促進期成同盟会を立ち上げ活動してまいりました。これからも、3000 メートル滑走路の実現に向け、新潟空港のさらなる利用喚起を図ってまいりたいと考えております。

本日の講演会は、第一部で国土交通省近畿地方整備局副局長の森川雅行様から「アジア・ゲートウェイ構想と地方空港」と題してお話をいただきます。森川様には、平成 14 年から 3 年間、新潟県港湾空港局副局長、局長として新潟空港の発展にご尽力をいただきました。森川様のお話を通して、皆様とともに新潟空港の可能性について考えてみたいと思っています。第二部では「海外旅行をもっと楽しもう」と題し、テレビ、ラジオでおなじみのアナウンサーの方々から、とっておきの海外旅行の体験談や楽しみ方について語っていただきます。この座談会でのお話をヒントに、皆様方それぞれの海外旅行の新たな楽しみ方を見つけていただき、次の旅行はぜひ新潟空港からお出かけいただければ幸いです。さらに第 3 部では、航空各社から航空券や航空グッズをご来場の皆様に抽選でプレゼントしていただきますので、どうぞ最後までお楽しみください。

この講演会を契機として皆様の新潟空港への理解が深まり、3000 メートル滑走路整備に

向けた機運が県内外に広がっていくことを祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。
どうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

新潟県副知事 小熊 博 氏

皆さんこんにちは。「明日の新潟空港を考える講演会」にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。ご案内のとおり、新潟空港は毎年 120 万人を越える利用者を数え、本州日本海側随一の国際空港として、また北東アジアのゲートウェイとして発展してきております。これもひとえに、航空関係者をはじめここにお集まりの皆様のご支援、ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

新潟空港を取り巻く情勢ですが、昨年国におきましてアジア・ゲートウェイ構想を打ち出しました。これに基づき、外国航空会社による地方空港の乗り入れが原則自由化されました。このことによって新たな路線開設の可能性が広がる一方、羽田空港、成田空港が拡張される 2010 年には、近距離国際線を巡る首都圏空港との競争が激化することなどが予想されており、大きな変動の時を迎えているといっても過言ではございません。県といたしましては、既存の国際線を利用したヨーロッパ等への乗り継ぎ利用の拡大など、新たな需要の掘り起こしに積極的に取り組み、航空ネットワーク網の一層の拡充を図ってまいりたいと考えております。

さらに、北東アジアのゲートウェイとして新潟空港が十分な機能を発揮していくためには、空港周辺地域との調和が課題であることから、騒音などの環境改善や冬期における中大型航空機の安定就航ができる滑走路の 3000 メートル化を実現すべく、官民一体となって取り組んでまいりたいと考えております。本日の講演を契機に、皆様から新潟空港の明日についてお考えいただくとともに、これまで以上に新潟空港をご利用いただき、より一層賑わいのある空港となることを祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。今日は、皆さんありがとうございます。(拍手)

来賓祝辞

国土交通省北陸地方整備局次長

小山 彰 氏

ただいまご紹介いただきました、北陸地方整備局の小山でございます。よろしくお願いたします。本日は新潟空港の明日を考える講演会ということで、このようにたくさんお集まりいただきましてありがとうございます。後援の一人としてお喜び申し上げます。

本空港は日本海側で唯一の2種A空港という位置づけで、国内の主要幹線航空路の一翼を担う位置づけでございます。乗客の方々は、県内はもとより関東圏の北部からも来られていまして、まさに日本海側の拠点空港としての機能を果たしているのではないかと考えております。

今ほどのご挨拶にもございましたが、新潟空港はロシアの沿海州や中国の東北部の都市とも直接定期便が就航し、非常にユニークな特徴を持っております。最近では、チャーター便も150便を越えるくらい飛んでおりまして、そういう点でも非常にユニークな空港だと認識しております。平成19年度の国際線の利用者数は23万人余りですが、近年の数字だけを追ってみますと、国内需要はそれほど伸びておらず100万前後で推移しておりますし、国際線が若干伸びたと申しましても全体で120万を超えたくらいであります。

港湾や空港を社会資本と呼んでおりますが、せっかく地元にある非常に貴重な社会資本ですから、リターンがなければいけないと思います。リターンというのは、まさに地元の方々、地域に還元するものですので、もっと大きなリターンが得られるはずだと思っております。

そんな観点でいきますと、せっかくある空港ですので、皆様方のお力でもっと活用していただきたい。あるいは利用促進を図っていただきたいと思っております。たとえば、今、東アジアが非常に経済発展しているということですから、定期便も就航しておりますので、新潟空港の地理的近接を生かし観光需要を掘り起こす。あるいは港湾と一体となって、航空貨物を掘り起こすような活動を、関係方面一体となって前に向かって進んでいかれることを大いに期待するところでございます。

環日本海交流や日本海国土軸という言葉が世の中に出回って久しいですが、その中核を担う場所ですので、新潟空港のいろいろな意味での機能拡充が必要であると思っております。私ども北陸地方整備局といたしましても、新潟県や市、地域の方々とパートナーシッ

プを取って、新潟空港が日本海全域の拠点性をより一層高めるような方向に向けて、一層努力してまいりたいと思っているところでございます。

先ほど申したように社会資本は地域のためにあるものですので、地域の皆様一人ひとりがそういうことを再度認識されて、皆様方のお知恵で新潟空港の発展がいかにあるべきか、こういう機会をとらえて、いろいろな議論が盛んになることを期待するところでございます。最後になりましたが、そういった雰囲気が一層盛り上がることを期待いたしまして私の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。(拍手)

第一部

ご講演 「アジア・ゲートウェイ構想と地方空港」

国土交通省近畿地方整備局副局長 森川 雅行 氏

ただいまご紹介いただきました、近畿地方整備局の副局長の森川でございます。ご紹介の中にもありましたように、私は平成 14 年の 7 月から 17 年の 8 月まで新潟県にお世話になっており、港湾空港局の副局長並びに局長をさせていただいております。また前職が国土交通省の航空局の計画課長ということで、そういった縁もあって今日このような話という運びになったものだと思っています。

新潟県にいた頃は、万景峰号の運航が再開したり、朱鷺メッセで連絡通路が落ちるなど、あまり楽しい記憶がないのですが、空港の関係ではいろいろな所にセールスに行きました。イルクーツクまで飛んでいたシベリア航空に再開をぜひお願いしたいということで、1 月にノボシビルスクに行って、マイナス 30 度と非常に寒かった記憶もあります。

今の職に来て 2 カ月くらいたっているので前のことをあまり覚えていないところもありますが、今日は「アジア・ゲートウェイ構想と地方空港」について、国際化が進む中で、地方空港はどういう状況になっていくのか、また今後どういうふうにしていけばいいのかといったことに重きを当てて、お話をさせていただきたいと思っています。

話は、大きく三つのパートに分けて考えています。一つは、わが国の空港の現状という少し硬い話をさせていただいて、そのあとにアジア・ゲートウェイの話。そこまではお手元の資料に入っていると思います。さらに、新潟でのお話しですので私なりに新潟空港の今後の目指すべき方向という、三つのパートを考えています。少し硬い話で恐縮ですが、よろしくお付き合いいただきたいと思います。

わが国の空港の話に入ります前に、資料の冒頭に「今後の空港および航空保安施設の整備および運営に関する方策について」と書いてあります。これは、19 年 6 月に国土交通省が交通政策審議会航空分科会においてまとめていただいたものです。ご承知のように、いま社会資本の整備は、社会資本重点整備計画に基づいてやっています、5 年ごとに今後どうしていくかという大きなビジョンをまとめています。

従来ですと、このタイトルが「整備に関する方策について」ということで、整備で終わっていました。しかし先ほど北陸地方整備局の小山次長のお話もありましたように、造るだけではなく今後どうしていくのかという運営に関する方策についてという、「運営」とい

う言葉が初めて入ったビジョンです。この文章の中に、「アジア・ゲートウェイ構想の実現等に向けて」とありますが、アジア・ゲートウェイ構想は平成 19 年の 5 月 16 日にまとめられているものです。

この図がわが国で公共用に使われている空港を示したもので、現在 97 の空港があります。マスコミ等では造りすぎだとか、使われていないというご批判もありますが、いまはもう三つしか新しい空港は造っていません。その一つが静岡空港で、平成 21 年 3 月にオープンします。百里の飛行場は航空自衛隊との共用になりますが、21 年度にオープンする予定です。さらに新石垣空港とありますが、現在の石垣空港は滑走路が 1500 メートルしかありません。ジェット機が飛ぶ空港はだいたい 2000 メートルあるのですが、石垣は需要もあるということで、737 の比較的小さなジェット機で東京から直行便が行っています。しかし距離もありますから、帰りは宮古で油を入れてこないで東京まで帰ってこられないということがあり、新しく 2000 メートルの空港を造っている状況です。

この空港数の推移は、どういう形で空港が造られてきたかを示しています。種、種 A、B、種、共用飛行場、その他飛行場とありますが、種空港は国の大事な基幹空港で、羽田や成田、関空、中部といった空港です。種は国が直接整備、あるいは会社が整備することになっていますので、基本的には地元の負担金が入っていません。種 A は、国が整備管理をする。種 B は国が整備をして地方が管理をするもの。種空港は、地方が管理する空港です。共用飛行場は、自衛隊と共用しているということです。

これを見ていただきますとわかりますように、空港の数が増えているのは種空港をいろいろなところで造ってきて、先ほど言った 97 という数字になっています。基幹的な種 A は最終的に 19 ありますが、ほとんど増えてきていません。新潟は、昭和 34 年に新潟空港ができて、昭和 46 年に佐渡空港ができています。

次の予算規模の推移は、予算がどのように使われてきたかです。図の一番上にあるのは維持管理運営費で、全国の空港の管理、あるいは管制をやらなければなりません。その運営費用として、でこぼこはありますが全体の 4 分の 1 くらいのお金を使っています。その下の青の帯の航空路整備事業については、道路と同様で空の上にも航空路がありますから、そのために必要な無線施設や通信施設をきちんと整備や管理をしていかなければいけません。そういったものに使っているお金です。緑の帯が環境対策事業費ということで、騒音問題や住居移転などに使われているお金です。一時かなりのウエイトがありましたが、近年は対策が充実しつつあるということで、だいぶお金が減ってきています。次の水色の帯

は東京国際空港で、いわゆる羽田空港の整備です。後ほどお話ししますが、国内航空の巨大拠点であるため、非常に大きな事業費を投入しています。現在、新しいDラン滑走路整備をしているところです。

新潟空港は一般空港等というところに入っています。公共事業費全体は平成6、7、8年がピークで今は当時の6割程度といわれていますが、それとほぼ同じような傾向を描いていまして、数も少なくなったこともあり、一般空港等の事業費は減りつつあります。しかし、この中には整備するだけでなく維持管理も入っていますので、単純に減っていくと維持管理が難しくなっています。新しく機能の高質化を図る高質化事業を平成16年度から開始しています。関空、成田、中部とそれぞれに応じて国費を入れています。成田や中部については会社が事業をしていますので、ここに載ってくるようなものはほとんどありません。

空整特会の歳入については、エアラインが払う着陸料という収入があります。あと、無線や通信施設を使う航行施設利用料というものがあります。それから財産処分や貸付といった雑収入等で平成19年度で6割弱の自己収入があります。それだけでは足りないので一般財源や燃料税、および借金にあたる財投など加えて、平成19年度は5,638億円になっています。

歳出につきましては、いわゆる羽田再拡張で4本目の滑走路の整備について、全体の3割弱。今、3本の滑走路があって既存の施設があり、これらの施設の機能向上を合わせてやっており、これらの整備をあわせると羽田で半分以上の事業を行っている状況です。先ほど言った維持運営費が4分の1です。一般空港については、サービス高度化推進事業とあわせて約1割です。

次は、国際と国内のネットワークの現状です。成田、関空、中部は、わが国の三大国際拠点空港です。成田については2006年ダイヤで、週に37カ国2地域。1722便。関空がそれより少し減って、28カ国2地域、73都市733便。中部がそれより若干減りまして、15カ国2地域、38都市390便ということで、成田のシェアが大きいことがわかります。それに反して、国内のネットワークは、成田、関空、中部の順に増えており、中部で22都市616便となっています。

しからは地方の国際ネットワークはどうかということで、青字は2001年度と2007年度の週間の定期便の推移です。ここに載っている空港で、2007年で398便、2001年は310便と、地方の定期便は着実に伸びてきています。また定期で飛ぶのとは別に、連休や旅行

シーズン、お客さんが集まる時に飛ばすチャーター便があります。2001年から2006年では、たとえば新潟ですと定期便が20便から19便になっています。チャーター便は、115が159になっています。定期的にやるチャーター便もあり、それが進むと定期便になるということで、定期便、チャーター便が一様に増えているかということ、そうでもなく2006年のチャーター便はだいぶ下がってきています。これは最近全国的に多い台湾のチャーターが、一部仙台などが定期便化しているためです。

次にアジア・ゲートウェイ構想の話に移りたいと思います。昨年5月16日に発表された政府のホームページの表紙です。アジア・ゲートウェイ戦略会議ということで安倍首相自ら議長になってまとめられたものです。航空の話ばかり言われていますが、この目次にあるようにアジア・ゲートウェイ構想というのは、「最重要項目10」と「重点7分野」という二つのパートに分かれています。その中でも、一丁目一番地は航空の自由化、(アジア・オープンスカイ)に向けた航空政策の転換とあり、そのほか貿易や人材、大学、金融の話など、それぞれの分野でアジアに向けての交流が進むようなものをまとめてあります。必ずしも航空だけのお話ではないということを理解していただきたいと思います。重点7分野についても、一丁目一番地に人流・物流ビッグバンがあります。

アジア・ゲートウェイ構想における航空政策のポイントについてお話ししていきたいと思います。一つは、いわゆるアメリカ流のオープンスカイという政策があって、まったく自由にしていましょうという話があります。それとは違って、国際的に遜色のない航空自由化、アジア・オープンスカイをスピード感を持って戦略的にやっていこうということです。

具体的には二つありまして、一つは国際航空ネットワークのお話です。今までは二国間の航空交渉というのがあって、たとえば日本と韓国であれば、どの地域とどの地域をお互い何便飛ばましょうと合意してお互いの利益になるようにやってきました。先ほど地方空港は原則自由という話がありましたが、実質的に自由にしていくということです。首都圏空港については、羽田、成田は今工事をしていますし、容量があってオープンにするといっても自由化できる裁量がほとんどないわけですから、戦略的に使っていないといけません。

関空、中部は、能力的には余裕があるのですが、どんなものでも受け入れるというより、交渉上、国際拠点空港としてふさわしいものを受け入れていくべきではないかという話で

す。あとの一つは、羽田、成田をどうするかという話を中心になっています。要するに羽田の更なる国際化を進める話で、首都圏の人の多くは成田まで行くのは遠い。羽田はすごく便利だというのは実感されています。4本目の滑走路ができることを再拡張と呼んでいますが、そのあとの話や成田との一体運用の話があります。これは後ほどご説明します。

先ほど言ったオープンスカイ政策とは、相互に自由化して無制限に認めていくということです。世界で多く実施されているといわれていますが、たとえばオーストラリア、ニュージーランドはオセアニアの隣国同士です。ほかはアメリカとアジア諸国、アメリカとEUなどそれぞれの事情に基づき実施されているのが現状です。

先ほど申しましたように首都圏の空港容量に制約がありますから、たとえば日本とアメリカでオープンスカイをやりたいといっても、便利のいい首都圏に要望が集中して、なかなかうまくいきません。相手が要求しても応えられないので、いまはそういう状況ではないだろうということで、先ほどのアジア・オープンスカイという形になっています。

航空交渉というのはあまり聞き慣れていないかもしれませんが、相手の権利とこちらの権利を交換して、双方に路線や便数、企業を増やすことによって人流や物流の活発化を図っていくということで、日中の交渉例があります。中国も非常に航空需要が旺盛で、北京や上海の空港が混んでいることもあり、順次、それぞれ何便ずつやりますとお互いのカードを切って交渉してきているわけです。

ロシアは特殊なものがあって、日本とヨーロッパはシベリアの上空を飛んでいくのが一番近いコースですが、ロシアは上を飛ぶ分に対して高額な上空通過料を取っています。これを何とかしていきたいという話があり、相手側の要望を受け入れつつ、こういった通過料の交渉等にも使っています。

先ほどありました大都市拠点空港の24時間化ですが、ご承知のように昨年8月2日に関空が2本、完全に供用ができたということで、関空の完全24時間化が始まりました。中部も24時間運用しているのですが、安全に飛行機を飛ばしお客様を乗せるということと考えますと、どうしてもメンテナンスが必要です。ここにありますが週3日の深夜メンテナンスがあり飛べないときが出てきて、完全に24時間化はできないということです。関空は非常にお金が高いという話がありますが、連絡橋の国の買い取りなどアクセスの改善や料金の値下げと、物流施設をやっています。羽田は3万回を国際線に当てるといっていますが、これは6時から23時の昼間時間帯の話です。23時から6時の深夜早朝時間帯は、国際旅客チャーター便を積極的に促進することになっていますが、今再拡張工事をや

っていますので0時40分から3時40分は一切飛行機が飛べないことになっています。

こういったものを活用していこうという話と、昼間時間帯においても羽田と金浦のチャーター便は1日8便あります。羽田と上海の虹橋のチャーター便は4便です。こういったチャーター便は実質的には定期と一緒にですが、同様の扱いになっています。次に、2010年以降に成田の平行滑走路が2500メートルになると、2万回増えます。4本目ができると3万回、40便の就航が可能ということで、この辺のチャーター便はそのまま定期便化していくのではないかと考えられます。

先ほど言いましたのが、羽田空港はD滑走路ができますと、29.6万回から40.7万回に増えるということです。3万回を国際線に当てるという話ですが、今まで3本の滑走路でやっていましたので、管制は非常に出入りが多いので難しいのですが、従来と同じような形です。これが4本できると井桁の形になりますので、今まで日本の空港にはない管制をしなければいけません。なかなか難しいので、管制官も徐々に習熟していく必要があります。いっぺんに増えるのではなく、発着回数は段階的に増やしていくということです。成田と羽田の国際線の増枠を用いて、戦略的に、航空交渉等でやっていこうという話です。

今の再拡張事業の整備状況です。埋立部とジャケット部、およびこれらの接合部、また、これまでの滑走路と結ぶ誘導路にわかれます。多摩川が流入しているので、影響のある部分については、河川が通過する栈橋構想になっています。鉄の柱を海中に打ち込んでその上に路盤を置くという形です。

よく話題に出てきます羽田空港の発着回数です。1997年から2007年度まで、1日の発着回数がどう変わってきているかということで、新C滑走路ができて増え、新B滑走路ができて増えています。先ほども言いましたように急激に増やすのではなく、ある程度段階をおいて増やしてきています。この能力が何で決まっているのかというと、飛行機が降りて滑走路にどのくらい滞留するかによって、次の滑走路が下りるタイミングが決まってくる。飛行機が滑走路にいる時間なるべく短くなれば次の飛行機がすぐに下りやすくなるということで、羽田などには高速脱出誘導路がたくさんつくってあります。

新潟空港には滑走路があって、横に平行誘導路とありますが、着陸してエプロンに戻ってくるまでに通る道とその取り付けがあります。通常は直角に取り付け誘導路が付いています。これはそのまま少し斜めに行けばできるようにアールを描いて、新しい高速脱出誘導路等をやっています。2007年は、そういったもので時間を31便、1増やして830回というのがいまの能力になっています。これが再拡張をすると1114回になりますが、発着

枠の検討をそろそろ始めることになっています。

次にアクセスの問題です。現在、京浜急行もモノレールも羽田空港まで行っています。今、新しく国際線のターミナルをつくっていますが、この二つはそこに駅を作ることになっています。成田が遠いといわれていますが、成田新高速鉄道の整備ということでいま整備をしており、これができるとう成田の国際空港と都心部を 30 分程度で結べるということで、かなりの時間短縮効果が見込まれています。

先ほどの再拡張の際に国際線をどこまで認めるのかというのは一つの大きな問題です。当初はここにある石垣が羽田から一番遠い国内線で 1947 キロ。これが一つの目安で、この中にこの 3 万回を振り分けようという議論がありました。しかしよく見てみると、北京が 2093 キロ、台北が 2108 キロとわずかな差であるわけです。本当にこんなところだけでいいのかという話ですね。

現在は、1947 キロを一つの目安としてわが国を代表する羽田にふさわしい路線を選んで、今後の航空交渉で確定していこうということになっています。非常に貴重な発着枠を使いますので、一定規模のデイリーの需要帯が見込まれるようなところから検討していった、相手の国との権益はフィフティフィフティになるように留意して決めていこうという整理になっています。

ゲートウェイ構想の進展状況については、いろいろと自由化が進んでいるということで、先ほど言ったいろいろな交渉で、上空通過料の段階的撤廃なども航空交渉で進めているということです。

アジア各国との航空自由化については、日韓、タイもそうですが、いままではどこどこ地点、どこどこ地点とやっていたのを、首都圏以外は乗り入れ地点および便数の制限を廃止して航空自由化をしていきたいと思います。たとえばアジアナ、福島、福岡、釜山とこういった路線を 1 月時点で増やしています。増やすのも自由で、自分たちが儲かると思えば飛べるし、儲からないと思えばいつやめてもいいという自由度が増しているわけです。

11 月にタイ、今年 1 月にマカオ、31 日に香港との間、首都圏は除いていますが、軒並みそれぞれの地点や便数を廃止して、お互い自由に行き来をしましょうとなっています。それから、羽田と上海のチャーター便ということで、19 年 5 月から 1 日 4 便あります。私も式典に出ましたが、ちょうど 35 周年にあたる日でした。日中のそれぞれの企業が飛ばしているということです。

北京の南苑チャーター便をいま検討しています。北京に行った方もおられると思いますが、北京空港は都心から非常に遠く交通も混雑していて、大気汚染ではないですが時間が読めないというのがあります。ここに南苑空港という空港があり北京とも近いということで、ここにチャーター便等を飛ばせないかという話です。

昼間の時間帯については、先ほどのソウルのチャーター便、上海のチャーター便。特定時間帯が20時半から23時、6時から8時という、お客様には使いにくい時間帯があって、ここのところは23便、ウランバートル、サイパンなどが運行しているということです。4月からは全日空が香港へ毎日チャーター便を飛ばすことになっています。深夜早朝時間帯については先ほどの3万回の枠の外ですから、お客さんがあれば、あるいは貨物等があれば飛ばせます。羽田においても、こういったチャーター便がたくさん飛んでいる状況になっています。

次に地方空港の乗り入れ自由化については、積極的に進めているところです。各空港の国際線発着枠のシェアを示していますが、成田で日本企業が40%、関空、中部で30%、その他の地方空港に至っては、日本企業は2%、福岡と上海でJALが飛ばしているのが1路線あるだけです。その他はほとんど、中国、韓国、あるいは、ここでいえばロシアが飛ばしている状況です。

空港整備法及び航空法の一部を改正する法律ということで、今の国会に上程されています。冒頭申し上げましたように造る時代だけではなくて、造ったものをいかに使っていくかという観点から、空港整備法は確かに名前が整備法ですから整備の法律ですが、空港整備ではなく空港法に改称するなど、定期的、戦略的に基本方針でどういう形で整備、管理をしていくか。それに応じて、ターミナル管理や保安施設をどうするか。周辺環境地域や空港関係者の連携をどうしていくか。それによって空港利用者のさらなる利便や安全性の向上を目指すという法律です。

当初はこの中に外資の話が入っており、非常に問題になりました。外資については別途議論するというので先送りして、この形になっています。

外資の問題については年内のできるだけ早い時期に結論を得ることになっています。

空港区分の見直しということで、冒頭申しました種、種、種というのをやめて、拠点となる空港については国土交通大臣が設置・管理する。これ以外で重要な役割を果たす空港は、地方公共団体が管理する。伊丹空港は種空港で国費100%でやっていたのですが、地方公共団体に3分の1を負担していただくと考えています。ただし特例として、

24 年度末までの間に耐震工事やその他機能向上に資する機能向上事業に要する費用に限って 3 分の 1 を負担していただく。その後はすべての負担対象工事の費用に対して 3 分の 1 をいただくという形で審議していただくことになっています。

次に新潟空港の目指すべき方向について述べます。これは配布資料の中にありません。新潟は昔から高速交通体系に恵まれています。たとえば上越新幹線でいきますと、大宮まで 1982 年に行って、85 年に上野で、91 年に東京ということで、いまの運行パターンは「たがわ」が挟まれて、「とき」が 1 時間に 2 本程度運行されています。関越自動車道路については、東京川越道路が関越自動車道に 1973 年になり、1985 年に前橋と湯沢が開通して全線開通しています。

新潟空港については、1950 年に A 滑走路が 1829m に、1972 年に B 滑走路が 1900 メートルになりジェット化が対応し、1973 年にハバロフスク線ができました。当時、このロシアとの定期線を引いてくるのはすごいことだと思います。こういったものが引かれて、1996 年に 2500 メートルの滑走路といまの新しいターミナルができているということで、空港は順次大きくなってきていますが、上越新幹線、関越自動車道については 20 年前にその型ができているということです。

上越新幹線の旅客輸送人員については 98 年ころからほとんど旅客輸送人員が伸びていません。その上輸送旅客 1 キロで、移動量と考えていただければいいかもしれませんが、これもほとんど伸びていません。私も新潟にいたころは、東京から新潟に戻ったわけですが、越後湯沢でどどっと人が降りて、越後湯沢から新潟の間は車両がガラガラという状況になっています。震災のときは当然減っています。

東北新幹線は、途中、東京から盛岡が 1991 年、2002 年に盛岡から八戸まで行っているということで若干旅客数も伸びていますし、人 1 キロもそれなりに伸びてきており、2011 年には、東北新幹線は新青森まで開通します。青森にも青森空港などいろいろな空港があっただうなるかという話があります。2014 年には、2014 年問題といわれていますが長野 - 金沢間が開業して北陸新幹線が開業します。ここにも富山空港や小松飛行場があります。それも含めて、先ほどの越後湯沢から向こうに行くという話がありますが、上越新幹線、新潟の利用はどうなるのかという一つの大きな問題です。2015 年には、青森から北海道まで新幹線が行く計画になっています。

そうした中で新潟空港はどんな役割を果たしていくのかですが、日本海側で 種 A 空港

は新潟だけです。地域的にみても、地域の拠点をもっと担っていかないとだめではないかと思っています。いま道州制の議論や北陸新幹線等の議論がありますが、北陸新幹線も、増えればその地域に人はたくさん来るんだと。ただ、どこに行くのか。新潟に来ないのと悲観的に考えるよりも、地域に訪れる選択肢が増えて人が増える。それをどう誘導していくかといった目で捉えるのが必要だという感じがしています。

アジア・ゲートウェイを進めて、ますますエアラインが自由に飛べるようになっていきます。そういった中で新潟空港は今後どこの地域を目指していくのかを明確にする必要があると思います。2010年の10月に羽田が再拡張しますので、それに伴って国内線、国際線がどう動くのか。それに対して新潟空港がどう反応していくのかというのが大問題です。

次に航空貨物の問題です。貨物の航空便の輸送は、定期の旅客機に乗せるものとエアカーゴ専用のフレーターという飛行機を飛ばして貨物だけ運ぶものがあります。新潟空港は、いまのところ130人や140人といった非常に小型の国際線しか飛んでいません。これらの飛行機の腹、ペリーに積めるのは2,3トンで、乗客の手荷物がありますからほとんど荷物が積みません。これがB767などの少し大きいクラスになると、数十トンまではいきませんが少し積めるようになり、コンテナに入れて貨物が運べるようになります。チューリップなども運べるのですが、今のままだと国際線を使って貨物を運ぶのは非常に難しい状況になっています。本来であれば新潟空港が出せるものが成田から行っている例もたくさんあります。成田は施設的には手一杯で貨物上屋等が空港の中で点在していますし、フォワードの上屋も成田空港の周りのいたるところにあって、これ以上大きくしようがない状況になっています。今後も需要がみこまれますから、新潟がどう対処していくのかが問題です。

戦略としてどうしていくのかということで、一つは日本海側の交流拠点をやっていかなければいけないだろうと思っています。交流人口を増やすという観点からは、佐渡空港がありますが、先ほどの首都圏との連携からいえば、発着枠が増える時に佐渡空港も何とか条件を整えてそこに入っていくことが必要だと思っています。今、滑走路が890mですが、いろいろな工夫をすることによって今の滑走路でも何とかできるかできないか。いろいろな研究要素があると思っています。

今は中国が世界の生産拠点といわれていますが、今後ベトナムやインド、ロシア。時間の軸が少し読めませんが、中国は本当にこの10年くらいですから、意外とこういったその他の地域の展開というのは、非常にドラスティックに進む可能性があります。ロシアに

については、新潟に非常に優位性があります。

あとは、どんな飛行機が飛ぶのかです。環境問題に加えて燃費ですね。いま非常に油が高いので、エアラインは効率のいい飛行機に取り替えています。ジャンボ 747 はエンジンが四つあり非常に燃費効率が悪いのです。これを少し小型ですが B777 などの燃費のいいものに変えていますし、787 などの中型機、小型機の領域も燃費のいいものに変えています。逆に、千何百人乗りの二階建ての A380 など、非常に大きな飛行機も受注をされて造っているということで、このあたりのどこを目指していくのかということもあります。

静岡が 21 年の 3 月に開港すると言いましたが、静岡に鈴与さんという運送会社があり、そこが中心になってリージョナルジェットで地域間を小型飛行機で飛ばすという話で検討が進められています。静岡と那覇と博多と新千歳についてはエアラインが飛ぶと言っておられますし、アジアナ航空も飛ぶということです。それだけではなく、各地域と結ぶようなリージョナルジェットの会社をつくって、それを地方間等に飛ばそうという動きがあります。

百里飛行場の場合は完成が羽田の再拡張後なので、エアラインが態度をはっきりさせていません。ただ、ビジネスジェットが乗り入れたいという話があります。小型機が羽田の再拡張でどう扱われるかというのが一つの論点ですが、ビジネスジェット、プライベートジェットは現在首都圏に入って来られません。従って、たとえば百里に入って、そこからヘリコプターで六本木なり新宿なりに飛ばしたい。その商売をしたいという方もおられます。世の中には多種多様なお客さんがいるんだなと思います。お金を持った人はいろいろな行動パターンをするということです。

もう一つは、対象路線です。ハルビンやハバロフスク、ウラジオなど、新潟独自路線が維持されるかどうかというのは非常に大きな問題ではないかと思います。羽田が 3 万回程度増えても 40 便程度ですので、いま行っているチャーター便を除くと、そう多くの便が羽田に振り分けられるわけではありません。たぶん中国などに向いていくのではないかと思います。蓋を開けてみないとよくわかりません。独自路線はエアラインの意向にもよりますが、新幹線利用で遠いところから来られるお客さんも多いので大事にして何とか維持していかなければいけないと思います。

煎じ詰めれば、やはり新潟の地域そのものの力がなければ何を言ってもお客さんは集まってくれません。私もいましたが、これは十分県や市、関係者の皆様がいろいろなところでやっておられると思います。ただ何点か思いつくままに言わせてもらおうと、いいところは

たくさんあるのですが、昔から言われていると思いますが新潟はPR不足かなと思います。酒の陣や食の陣をやっていますが、首都圏の人や関西圏の人はほとんど知りません。実際にはすごくいいイベントだと思います。

それとサービス精神と書いていますが、実は私、昨日大阪から飛行機で来たのですが、春休みでお客さんが非常に多いということで、リムジン路線バスに乗りました。相変わらず切符の自動販売機もなく、お客さんが直接現金を入れる。小銭がないと車内で両替をして、延々と人が並んでいます。なおかつ運転手しかいませんから、バスの横のサイドを開けてスーツケース等の大きな荷物を入れるわけですが、入れたら閉めるところまでだれも見えていません。ある婦人の方が、「あれ、大丈夫かね。取られないかね」と言っていて、非常に心配されていました。たぶんその方は買ったおみやげがスーツケースに入っていて、無造作に置きっぱなしになっているのでしょう。これがお客さんへの対応かなという感じがしました。

時間もなくなりましたので最後になります。いま国土形成計画等をつくっていますが、その中で、形成計画の「終わりに」書いてある項目が、これはそのまま新潟県、あるいは新潟空港にあてはまるのではないかとということで引用させていただいています。 の「地域の競争力は国内ではなくてアジアの中で」ということで、国内で競うのもいいですが、アジアもそれぞれ進展していますので、その中でどうやって地域として競争力をつけていくのかが必要かと思います。

の「競争力は都道府県単位ではなく広範囲で」。広範囲といってもべたっと広範囲ではなく、先ほど言った成田、関空、中部ではありませんが、トップがいて、その下に親がいて子がいる。環日本海については、新潟空港なり新潟県がインフラ等を含めて非常に優位な状況にありますので、トップに立ってやっていく必要があると思います。

は少々外れますが、「市町村ではなくより広域で」といった意識改革で取り組んでいく必要があると思っています。古くから北東アジアの経済会議やエリナといった活動を通じて、新潟県は環日本海交流の旗振り役を務めてきたと思います。いままでの経験、知己やつながりが非常に重要なので、空港もさることながら人的交流など、財政状況が非常に厳しいのはよく理解していますが、そういったものを綿々とつなげていくことが、将来的にわたっての新潟空港の3000メートル化等にもつながっていくのではないかと考えています。

与えられた時間がほぼまいりましたので、私の話はこのへんにさせていただきたいと思

います。(拍手)

第二部

座談会「海外旅行をもっと楽しもう」

司会 それでは、座談会を始めさせていただきたいと思います。楽屋のほうでは意気投合して盛り上がっていた皆様方ですが、今日はぜひ賑やかに、楽しくお話を進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

一同 よろしくお祈りします。

司会 始めに、担当番組などを交えながら自己紹介をしていただいて、ご挨拶をお願いしたいと思います。

實石 BSN新潟放送の實石あずさと申します。よろしくお願いいたします。私は普段夕方方のニュースを担当していきまして、それ以外に会社でやっております「新潟キッズプロジェクト」という、新潟県の子どもたちが元気に大きくなっていく環境づくりができるような活動をしています。

仕事を始めてから旅行に行く数は減ってしまったのですが、いままではアメリカ、カナダ、韓国、パプアニューギニアやソロモン諸島など、いろいろな国に行かせていただきました。今日の座談会をとっても楽しみにしています。よろしくお願いいたします。(拍手)

中田 座ったままで失礼いたします。NST新潟総合テレビの中田エミリーと申します。一昨日、ずっと担当してきました「スマイルスタジアム」を卒業しまして、3月31日からは大ベテランの村山恵美アナウンサーのあとを受け継ぎ、平日のニュースを担当することになりました。機会があれば皆さんチャンネルを8チャンネルに合わせただけであればと思います。35ですかね。すみません。よろしくお願いいたします。(笑)

私は、海外旅行といえば中田エミリーかというくらい大好きです。母が旅が大好きだったもので、小さいころからいろいろなところに行ってきました。学生時代アメリカで1年半ほど暮らしていたこともあって、数を挙げたらわからないくらいいろいろ旅してきました。今日はこの座談会を非常に楽しみにまいりました。しゃべりすぎないように気をつけてくれと言われていきますのでなるべく抑えつつ、楽しくお話ししていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。(拍手)

笠井 皆様、はじめまして。UX新潟テレビ21の笠井さやかと申します。現在は土曜日の朝7時から8時の「まるどりっ!」という番組の中でリポーターとして皆さんにいろいろな情報をお伝えしています。もうすぐ1年たつのですが、まだまだ上手に伝えられていな

い部分があって、新潟の町を歩きながらいろいろ新潟の魅力を探っていくという番組になっていますので、ぜひ皆さんご覧になってください。

旅行はといいますと、父の仕事の関係で小さな頃はいろいろな場所に行きました。最近仕事が始まってからは行けていないのですが、今日は昔の旅行を思い出しながら、海外旅行って楽しいんだよということを皆さんにも感じていただけたらと思っています。本日はよろしく願いいたします。(拍手)

中村 FM 新潟の中村智景と申します。よろしく願いいたします。この中では唯一ラジオからなので、声だけは聞いたことがあるという方もいらっしゃると思いますが、77.5MHzで放送させていただいております。私は普段、夕方毎週金曜日の「SOUND SPLASH」という番組を担当させていただいております。「SOUND SPLASH」という番組では、ちょうどいまコンチネンタル航空で行くグアムツアーを特集してまして、グアムのいいところをいろいろと特集させていただいております。グアムだけでなく、いろいろな海外に新潟空港から飛んでいるということと、私自身が関西の出身なのでよく伊丹との往復の航空便を使っているんですね。そのへんもこの座談会の中でお話できるといいなと思っています。今日はよろしく願いいたします。(拍手)

司会 ご紹介させていただきます。きれいな女性に囲まれたその席に座りたいと思っいらっしゃる男性の方は多いのではないかと考えていますが、今日は専門家としてのお話も聞けるのではないかと考えています。社団法人日本旅行業協会新潟県地区会長で、株式会社 JTB 法人営業新潟支店支店長の神保さんです。

神保 ご紹介いただきました、日本旅行業協会新潟県地区会の会長をしております神保でございます。今日は美人アナウンサーに囲まれて、プロの方々ですから非常にトークが上手だと思うのですが、そのパワーに頼りながら座談会を進められればと思っています。残念ながら番組は持っておりません。どうぞよろしく願いいたします。(拍手)

司会 この楽しい雰囲気を進めていきたいと思いますが、まずは海外旅行のおもしろ体験談ということで、一人ずつ海外でのおもしろい体験、変わったこと、それからびっくりしたこと、人生のうえでいいなと思った瞬間みたいなものをいろいろとお話しいただけたらと思うのですが、實石さんのほうからお願いいたします。

實石 先ほども国の名前は上げたのですが、大学3年生のときにパプアニューギニア経由でガダルカナル島に1カ月行ってきました。完全に学生のツアーで、現地の人たちとまったく同じ生活をしながら、現地にホールをつくるため、コンクリートを練って埋めてと

いう作業をしてきたんです。電気も通っていないので、ジェネレーターが夜 10 時には切れる約束になっていますので、それ以上起きているとろうそくを付けなくてははいけません。そうすると虫が飛んできたりして、これは夜遅くまで起きていられないねということで、だいたい朝 5 時に起きて夜 10 時前には寝るという生活をしながら、現地の人たちと一緒に生活をしてきました。

本当にものは何もないんです。のどが渴いたら、現地の子に頼んでヤシの実を落としてもらって切って飲んだり、食べるものもスターフルーツを取ってもらったりという生活だったのですが、すごく楽しかったんですね。もちろんものがあるって、おいしいものを食べてというツアーもすごく楽しいんですが、それとはまったく違った魅力があって、行ってよかったなと思いました。

すごく印象に残っているのは、何もないので夜真っ暗になるんですね。満天の星空と大きなお月様を光にして夜道をみんなで散歩したりといった学生ならではの体験だったのですが、旅行は日常と切り離して生活することができるので、ちょこちょこ旅行するのって大事だなと思っています。いま話をしながら旅行に行きたくなった感じがしました。

中田 ヤシの実って、ココナッツ？

寶石 そうです。飲んだあとも、周りのココナツの白い部分が食べられるんですよ。まったく無駄なく。

中田 現地のお子さんとかもみんな。

寶石 そうです。いっぱい落としてもらおうと全部飲まなきゃいけないので大変なので、一人 1 個とか 2 個とかね。やっぱり現地の人と生活するとか、人とのふれあいて旅行はいいですね。エミリーさんもいろいろなところに行かれていますけど、どうですか。

中田 そうですね。人との出会いが一番の旅の醍醐味だなと思いますね。私は学生のときから一人旅がすごく好きで、スーツケースを持たずにバックパックというお尻あたりまであるリュックでバックパッカーの旅をよくしていました。飛行機も周遊できる券を買って、どこに行くかも決めずに旅に出たり。

一番思い出に残っているのが南米に行ったときですね。いままで南米には 2 回くらい、2 カ月と 1 カ月と行ったんですけど、1 回目はボリビア、ペルー、エクアドルかな。2 回目はアルゼンチン、チリを旅したんですが、アメリカに住んでいたときに会った友達が世界各地にいるので、一人で出かけて現地の友達と会ったり、ほかの国から来た友達と一緒に旅をするという感じで、観光客という立場で行くというより、現地のその場を知ってい

る人と一緒に旅をするので、地図に載っていない場所に行ったり。

中でも一番思い出に残っているのが、世界最南端の町ですね。チリのウイシュアイアという町が世界最南端の町ですけど、その町に行って小さなログハウスみたいなところに泊まって、確かそこではイタリア人のかわいい女の子と知り合いになって一緒に自炊したりして。つくってもらったパスタがおいしかったんですね。

あと、パタゴニアといってチリの南のほうにある氷河に行ったときもすごく思い出に残っています。目の前でゴーッという大爆音とともに1時間に1度くらい氷が崩れ落ちるんですね。そういった大きな氷河を目の前にして、地球温暖化が深刻化しているというの。10年前とは3倍氷が解けて、水の体積が上がっているんですよ。そういうことも体で感じて心で感じて。

自然を見るのが好きなので、都会よりも田舎のほうに旅するのが好きですね。JTBさんでも世界遺産を巡るたくさんツアーがありますよね。そこらへん、しっかりPRしていたでいて。自分の財産になると思うので、今日の題名ではありませんが空港から出会いを求めてわくわくする気持ちはそのままに、いろいろな旅先に出かけていくといったような感じ。行きたくくなりますね。

司会 ありがとうございます。笠井さん、お願いします。

笠井 私はまだ一人旅の勇気がないので、思い出としましては家族旅行ですね。私の中で心に残っている家族旅行は、小学校5年生のときにアラスカに行ったことです。アラスカでは、キャンピングカーを借りて大きな海や川、湖に行ってキャンプをしたり、川と海でしたらサケを釣りに行って、母がキャンピングカーの外で豪快に捌いていくんですね。イクラと身とを分けて、次の日の朝には漬け込んだイクラが白いご飯の上に乗っかって出てくるとか。

實石 日本みたいですね。しょう油漬けってということでしょう。

笠井 はい。スープの母のつくってくれたスープの香りが心地よくて目覚めるとか、そういった大自然の中でゆったりとした生活をしながら、キャンピングカーという家族全員が狭いところに集まっているいろいろなことを話したり、外を眺めながらおいしいものを食べたり。お金はかからないですが、体を動かして大自然に触れる経験は、新潟に来てから長い冬でしたが、かえってその厳しい冬もアラスカの寒さに似ていた気がして何か懐かしい気持ちになりました。会社の方に、冬が長いから鬱になるんじゃないかと言われたこともあったんですが全然そういうことはなくて、私にとってはすごく懐かしい気分させてくれ

るすてきな新潟でした。

實石 アラスカだよね。「すてきな新潟でした」…。

笠井 そうです。アラスカでのそういう経験が、いまの自分に何かしらいい影響を与えてくれている。気持ちを前向きにしてくれる。そういった経験になったなと思います。まとめとしましては、新潟いいところ。海外旅行もとってもいい経験になるということです。ね。ありがとうございました。

中村 初々しい感じでね。

實石 姉さんにつなげていただいて。

中村 新潟ですと三面川でサケのつかみ取りもありますので、そのアラスカ体験を新潟でもしていただけるといいんじゃないかと思います。

笠井 ぜひ。ありがとうございます。

中村 そういうまとめでよろしかったでしょうか。

笠井 はい。ありがとうございます。

中村 いま大自然がというお話がありましたが、私は新潟に来てこれでかれこれ 12 年になるのですが、十七、八年前に佐渡島でダイビングの免許を取りまして、その後新潟空港からいろいろなところへダイビングツアーに単独で行っています。海の中は国境がないですし、ダイビングはバディって言って絶対に二人で潜らなければいけないのですが、ダイバー同士は仲間なんですよね。同じツアーに入った異国の人だったり、違う日本の地域から来た方と一緒にすることがあったりして、海外旅行は出会いというのに欠かせないアイテムじゃないかと思います。

これまでいろいろなところを潜ってきたのですが、ニューカレドニアもすばらしい砂浜が海底にありましたし、グアムもサイパンもプーケットもオーストラリアのグレートバリアリーフも、新潟からだとあまり時差がない地域にいろいろな南国があるので。グアム経由でいろいろなところに飛べますので、ぜひ皆さんもダイバーになっていただきたいと思います。

ダイバーになっていただけると、まず海外に行きたいと思うんですよね。いろいろな海を見てみたい。佐渡島ももちろんそうですが、海外の海底ってすごいなと。洞窟があって、狭い中にタンクを担いだまま潜っていく。こんなところに入って大丈夫なんだろうかという洞窟があったり、太陽が降り注ぐと洞窟の向こう側が真っ青にきれいに見えるブルーホールとか、ロタ島にはロタホールもあるのですが、そういったところを見るだけで世界観

が変わるんですよ。

普段生活していて仕事をしている中で、何でこんなちっぽけなことにつまずいていたんだろうと思うくらいスケールが大きい人間になったような気分になって帰ってこれる。それが海外旅行でダイビングをしたあとの気分の爽快感かなと思います。

司会 ありがとうございます。神保さんの特別な体験って何かありますか。

神保 私は仕事柄いろいろなところに行かせていただいています。何を話そうかとさっき思っていたんですが、仕事として行くとなると感動がいま一つなかったりするんですね。あくまで仕事ですので、プライベートでもう1回来てみたいなという思いはあるんですが、感慨にふけったりはできないんです。ただ、しいて上げるなら、私が初めて海外旅行に行ったのが、中田さんと同じでバックパッカーだったんですね。私は大学生のときに、南米ではなくて北米を、1カ月くらいバックパックを背負って卒業旅行で行って来ました。

男3人で行ったんですけど、グレーハンドというバスがアメリカ大陸を走り回っていて、そのバスを買って、1カ月間乗り放題なんですけど、それを駆使して東から西、北から南と行って来ました。実ははこの会社に入ってからでも行く機会があるだろうなと思っていたんですが、いまだに行く機会がなかったのが南部のニューオーリンズです。その1カ月間、メキシコのほうも行ったし、カナダに行ったのが2月だったものですから、ナイアガラの滝も半分凍っている状態で、ベストシーズンで見られない裏の観光地を見たりしたわけです。

その中で印象に残っている観光地としてしいて上げればニューオーリンズ。非常に楽しい町だな、もう一回行ってみたいな。きっと行く機会はあるだろうなと思いつつここまでできてしまったんですけど、町がいろいろな顔を持っていて、ミシシッピー川が流れていて古きよき時代の町並みの顔があったり、一面では高層ビルが立ち並ぶ近代都市ですからそういう顔もあったり、映画で使われた路面電車が走っていたり、ミシシッピー川に蒸気船が走っていたりと、非常に風光明媚な場所です。

夜は夜で、大道芸人が町に出て火を吹いてみたり、一輪車に乗ってみたり。それからバーボンストリートという繁華街があって、ストリップの発祥地なんです。女の人が客引きに窓から足だけ出してお客さんを引いたり、非常に明るくて開放的なところなんです。風俗的な印象はありませんね。

中田 男性3人で？

神保 男性3人で。ツッコみますね。そういったところがあったり、あとはデキシーラ

ンドがジャズを弾いていたり、とても楽しい町です。料理もクレオール料理というのがあります。フランスの植民地時代を経験している町ですから、アメリカの大味のステーキとかではなくて、牡蠣を使った料理であったりフランス料理の影響を受けた非常に特殊な料理があります。昼も夜も本当に 24 時間楽しめる町だなど、すごくいい印象を受けて帰ってきました。

社会人になって 1 カ月バスを乗り回して旅をするなんていうことはあまりない経験だと思いますし、私にとって初めての海外旅行だったのですが、いい経験をさせてもらったと思っています。それはいまだに忘れられない海外旅行の体験です。

司会 ありがとうございます。皆さんすてきな体験をされている方ばかりなので本当はうらやましくなってきますけど、海外旅行をされるときにもっと楽しもうというところでもいいアイデアとか、あるいは旅行の前に心掛けていることが何かありましたら教えていただきたいと思うんですが。いま中田さんがマイクを持っていただいています、ざっくばらんにどなたがしゃべっていただいてもかまいませんので、盛り上がっていきたいと思います。どなたかいいアイデアがありましたら。

中村 言いたい放題だったら、ぜひ皆さんこれをプランにしていいただきたいものはたくさんあるのですが、先ほども控え室でいろいろと話をしていて、ヒューストン空港が会いの空港であると。

中田 そうそう。そうなんです。

中村 この中だと私が一番年長さんですけど、独身の女性にとって出会いは必要でございます。新潟空港が会いの場になればなって。

中田 そう。国内一のね。何かすてきなカフェがあったり。

實石 そうですよ。

中田 絶好のデートスポットになりますよ。飛行機が飛び立つところ。

實石 しかも、新潟市の中心市街地から近いじゃないですか。飛行機が飛び立つところも見えるようになっているんですけど、そこにもうちょっとすてきな、雰囲気の良いお店があったら、きっと相手がばんばん見つかりますよね。

中田 駐車場も広いですし。

實石 そうですね。

司会 じゃあ、新潟空港をおしゃれにチェンジしてほしいというか。

實石 そうですね。せっかくの国際空港ですから、もうちょっと明るくて賑やかな雰囲気

気があってもいいかなと思ったりするんですけど、どうですか。

笠井 そう思います。旅行ってというのは空港から始まっていると思うので、そこが皆さんにとってわくわくする場所になったら、もっと旅行は充実したものになるんじゃないかと思えますね。

中村 私も国内の空港をいろいろ見てるんですけど、新潟空港はとてもコンパクトに、国際線なのに国内便のような気分で壁がなくいける空港であることはあるんですが、そこに何かポイントとなる、人が集う場所みたいになっていくとより一層いい気がしなくもないですが、神保さんどうでしょう。

神保 ヒューストンの話を先ほどしていましたが、空港って何となく異次元の要素がある気がするし、そういうところの出会い、わくわくするものがあるのかもしれないですね。

中村 出会いたいですね。

中田 そこばかり。(笑)

神保 そのためには、さっき言ったように滑走路を眺めながら、何かを飲みながら過ごせるようなすてきなラウンジがあると。市内にも近いですしね。

實石 そうですよ。旅行ではなくても、ただ空港にお茶を飲みに行くとかね。

中田 遊びに行こうみたいなね。

實石 そういう場所になれば、旅行じゃなくても行く方ももっと増えるんじゃないかと思ったりするんですけど。

笠井 そうですね。

中田 いま囲碁のスペースとかがあるんですね。

神保 2階にあるところですね。

中田 そういうエンターテイメント的な要素をもっと増やしていってもらって。

司会 いつもイベントしてる情報がそこから出ていると、行きたくくなりますよね。

笠井 そうですね。

實石 休日の一つの選択肢になりそうですね。

中田 空港って外観はすごくカッコいいですもんね。でも、中に入るとちょっぴり寂しい感じはしませんか。

中村 広いからそういうふうに思ってしまうのかもしれないですね。もしあの空間で違う何かができると、もっとすごいのにと思えますよね。この間中部国際空港に行ったとき、

ちょうどクリスマス時期だったのかクリスマスライトアップをされていたんですけど、新潟空港ってそんな場所があったりするんですか。もしあれば、イルミネーションがあるだけでデートに来たくなるような。

實石 確かに。

司会 大きな白根の凧はあるんですけどね。

一同 ありますね。

中村 それをライトアップしていただけるとね。

實石 新潟空港を利用したときにいいなと思うのは、帰国してからが早いんですよね。

中田 すごく早い。税関も通るのが早い。

實石 疲れて帰ってきているからうれしいですよ。そのほかにエンターテインメントがあれば、本当にもっといい場所なんだけどなって思うんです。新潟空港は、乗り継ぎは結構いろいろできるんですよ。

神保 いろいろできますね。国内もありますし、関西、名古屋。海外に目を向ければ、ソウルやグアムや上海。そこをハブにして、いろいろなところには海外旅行ができますからね。そういう意味では、新潟空港はもっと利用価値はあるんだろうと思いますね。

中田 今年は年末年始にお休みが取れたので上海に行かせていただいたんですけど、帰りに新潟へのチャーター便が飛んでいたみたいで、上海の空港に成田とか名古屋とか出ている中で、新潟という文字を見つけたときに何だかうれしいなって。大都市の一つっていうイメージが一気に浮かんで、海外で新潟って出ているとうれしいなと思って。もっとチャーター便も増えて。

神保 上海は定期便があるんですよ。

中田 そうだ、西安に定期便があるんですね。

神保 上海とハルピンですね。

中田 私セントレア経由で行っちゃったんです。(笑)すみません。

中村 時間が合わないと、どうしても違う国内の空港に飛んでってということもあるんですけど、いろいろな空港に仲介をしていくと世界各国に行けるわけですよ。

神保 どこでも行けますね。ツアーをつくる立場からすると、乗り継ぎうんぬんとして出ますから、同日乗り継ぎができるところできないところはあるんですが、それを問わなければどこへでも行けますね。

中村 韓国経由で行ったとき、韓国で焼き肉を食べてから違うヨーロッパに行くとかで

きるじゃないですか。

實石 そうすると、どんどん旅も楽しくなりますよね。社会人になってから旅行に行くと、友達となかなか予定が合わないことが多いじゃないですか。そういう場合に一人旅になっちゃうときもあると思うんです。女の子の一人旅、大丈夫？ って周りがすごく心配されるんですが、実際一人旅をされる方は多いですか。

神保 最近は多いですね。特に若い方が多いです。目的を持って旅行する方が増えていきますから、私はこれをどうしても見たいとか、私はこれをどうしてもやりたいとかそういう目的があって、それが合わなければ一人でということになるんでしょうね。

實石 周りはすごく危険じゃないかって心配するんですけど、そういうのってツアーを組む方の立場からいかがですか。

神保 はい、そのとおりです。(笑)日本人の海外旅行は、もちろん皆様方みたいに目的を持っていろいろな体験をされて、旅という一つのアドベンチャー的な要素を持って出られている方もいらっしゃるし、まだまだ初心者の方もいらっしゃると思うんです。私が言っているのは何なのですが、自己責任という言葉がありますよね。日本人の海外旅行に行く方の自己責任の意識が、もう少し強くなってくれたらいいと思うんです。

欧米人は自己責任の意識がすごく強くて、どこかで紛争があるとか、もちろん命を取られるような状況のときに行ってはいけませんが、微妙な状況というのがありますよね。そういうとき、日本人はあまり行かないですね。行ったとしても、危険に遭わないように旅行会社がある程度大丈夫だという範囲で行動を制限したりしてしまいますから、そういう意味では旅の楽しさを半減させてしまっていることがあると思うんですね。

いまのお客さんは、いい意味でも悪い意味でもいろいろな主張をするじゃないですか。そういう意味では、案内もしっかりしなければいけない。何かあってはいけないということが、逆に度が過ぎているところがあるのではないかと私は思っているんです。夜は出てはいけませんとか、この地域は治安がよくないから行ってはいけません。ここの屋台で下痢をすればいけないから食べてはいけません。そうしたら何をしたらいいのか。一日中ホテルの中で、ホテルのレストランで食事をして、バスに乗って、バスからほとんど降りることもなく観光をしてまたホテルに戻ってくる。それもツアーなのかもしれませんが、楽しさが半減してしまう気がするんです。危険だとか危ないというのはもちろん大事なことであるのですが、多少のハプニングは旅のおもしろさではないかという気はしますね。

中山 JTBさんは世界各地に支店がありますから、いつでも助けてくださるという安心

感がありますよね。

司会 神保さん。子育てが終わって自由になる時間が持てるようになると、これから海外に行ってみようかという方が結構いらっしゃると思うんですよ。これからが私の時間という感じでいらっしゃると思うんですが、やはりいま、昔よりは増えていますよね。

神保 そうですね。子育てが終わって行ける場所と、子どもを連れて海外旅行に行ける場所とがあるんだと思うんですけど、ハワイなんかは比較的医療の施設も充実していたり、衛生的なことも安心感があって、お子様を連れて行かれる方が多いです。かたや、そういう事情が許さない地域もありますし、子どもが病気になってしまったらどうしようか。病院の水準がどうなんだろうかということもありますから、子育てが終わってからどっと出かける地域というのはありますね。

いまおっしゃったように、アジアのアンコールワットであるとか、あるいはもう少し旅行日数が長くなるようなところに子育てを終わられた女性同士のグループの旅行も増えていますね。

司会 年配のおばあちゃま方が、一生に一度でいいからヨーロッパのほうに行ってみたいわという感じでおっしゃっている方もいらっしゃると思うんですが、新潟から行く方法もありますよね。

神保 一般的にはソウル経由でヨーロッパに行けます。それから不定期ですが、新潟空港からチャーター便が出ています。チャーター便がないときはソウル経由でヨーロッパに入る方法があります。

司会 皆さん方、これから行ってみたいところを教えてくださいたいと思うんです。

實石 最近テレビでよく見ているパラオに行ってみたいと思っています。会社のディレクターが取材に行ってきたんですけど、海もすごくきれいでいいところだったよっていう話があったんですが、パラオも行けるんですよ。

神保 ええ。新潟からグアム経由でパラオに行けます。

實石 一回だけ乗り換えれば行けるんですよ。

神保 そうです。グアムで乗り継いでパラオに行くんです。非常にきれいなところのようですから、ぜひ。私は行ってないんですけどね。(笑)

實石 新婚旅行にいいんじゃないかっていう話でした。そういう雰囲気のところだよっていうお話でしたね。

神保 ダイバーの方にとっても非常にいい場所だと思いますね。

中村 そうですね。ずっとそこに潜っていたいというような海が広がっていますからね。

司会 中田さんはすごくダイナミックな旅をしそうですね。

中田 いまぱっと浮かんだのが、アフリカに行ってみたいですね。どうやって行ったらいいのかわからないですけど。神保さん、アフリカってどうやって行くんですか。

神保 新潟から行けますよ。大丈夫です。乗り継ぎの回数が増えるだけの話ですから、どこでも行けます。

中田 どこでも行けるんですね。

實石 そうですね。

神保 ソウル経由でロンドンに入るなりローマに入るなり。そこから乗り継いで行けばいいですね。あるいはパリから乗り継いでアフリカに入っていけばいいと思います。

中田 いいですね。新潟空港バイバイってやるときに、アフリカに行ってくるねって。

實石 キリンに会って、ライオンに会って。

中田 どこでも行けるんだ。さやかちゃんは？

笠井 以前ハワイに行ったんですが、これからまた行きたいなと思っています。ハワイのゆったりとした時間が、自分にとってすごく影響を受けたんですね。私はどちらかというと引っ込み思案な性格だったんですが、ハワイ旅行でいろいろなことが吹っ切れまして。(笑)

中村 何があったんだろう。

笠井 ダイヤモンドヘッドをサイクリングしたり、小さな水族館があるんですけどそこまで1時間以上かけて歩いていたり。夜の海の流れる音を聞いたり風を感じたり、特に何しに行こうって決めていったわけではないんですが、ハワイの全体を楽しむ旅行をして。いまこういった仕事をさせていただいているのですが、これをやりたいと思ったのも吹っ切れたことで飛び込んだ世界でしたので、また改めて行きたいなと思っています。

新潟からもチャーター便というかたちで行きやすくなっているって聞いたんですが。

神保 かつては新潟 - ホノルル線があったんですがいまはなくなりまして、冬場を中心にチャーター便を出しています。今年も3月に2本チャーター便を出しています。どうしても冬場は暖かいところに行きたいですね。今後も冬場にチャーター便を出していく予定ですので、ぜひそういったものを利用していただい。乗ってしまえば、寝て起きればホノルルですから。乗り換えなしで。

笠井 ハワイはお薦めの場所なので、新潟の方に行っていただきたいですね。何かあり

ますか。

中村 私はダイバーですので、南国へ行きたい気持ちがあるんですけど、心に一つ決めていることがありまして、新婚旅行はタヒチに行きたいと思っています。

一同 おー。

中村 いつになるかはわかりませんが妄想だけは広がっているんですけど、水上コテージに、朝カヌーに乗ってブレイクファーストを運んでくるんですよ。そのコテージも床がガラス張りで、その下に泳ぐ魚たちが見えるんですって。写真とか映像でしか私は知らないんですけど、それをぜひ見に行きたいと思っています。

實石 そこまでちゃんとシミュレーションされているということですね。

中村 はい。あとは相手の像だけが見えていない。ただそれだけですけど、でもそこは相当愛が深まりそうじゃないですか。

笠井 そうですね。

中村 あなたに言われると思わなかったんですけど。いま話をしながら思い出したんですけど、私はグアム経由でニューカレドニアに行ったときに、グアムで乗り換えたのがエアフランスだったんです。そうすると、フランスからリゾートでやってくるフランス人の方々が飛行機にたくさん乗っていらして、そこからものすごい異国感が出てきたんですね。飛行機と一緒に乗っていても、途中経由することによってもっと違う海外を味わえたなと実感したことがありまして、トランジットするのも結構いいなと思いました。

神保 日本からだと日本人が中心ですもんね。

中村 そうすると、現地に着かないと異国の言葉に触れられないんですけど、そこからフランス語だらけになって。

中田 何か香りが変わりますよね。

中村 そうそう。

實石 わかるわかる。

笠井 空気が違いますよね。

中村 実際香りも変わりますね。付けている香水とかのね。

笠井 日本では味わえない空気ですとかおいしいものですとか、場所ですとか。何でも目に入ってくるものが自分をすごく解放させてくれて、不思議な感覚になれますよね。自由ですよ。

中田 ありがとう、かばってくれて。

司会 何かすごくいいボケとツッコミという感じがしているんですけども。今日おいでいただいた4名のアナウンサーの方々は、たまたまだと思うんですが皆さんパックの中に乗かって大人しく行って帰ってくるタイプではなくて、自分で本当に楽しもうって一生懸命楽しんでいらっしゃるのがすごくいいなと思うんですが、実際旅のプランとしては、行きと帰りは団体で行くけど、中のたとえば3日4日は本当に自由ですよという。それが一番いいような気がしますね、神保さん。

神保 旅慣れた方にとってはそうだと思うんですね。初心者は不安があるので連れて行ってほしいという気持ちも強いんでしょうけど、そういうニーズが高くなっているのは間違いありません。

皆さんパックの旅行ではなく本当に旅をされていて、それぞれ皆さん目的があって、何らかの体験をされるような旅に出られたのはすごいなと思って聞いていたんですけど、観光目的の旅行者として行くのではなく、一部の生活者みたいな体験をされてきたんだな。それがまた、観光旅行者の視点から見るとは全然違ってくるでしょうし。

生活者として暮らしたいというお客さんもかなり増えてきていて、ロングステイという言葉が生まれていますが、3カ月くらいタイで過ごしてみたりハワイで過ごしてみたりというような形態のものは増えてきています。これは観光旅行とはいえないのかもしれませんが、新しい旅行形態なのかなと思いますね。求めているものは、生活者としての体験をしたいということだと思います。

司会 皆さんお話をどんどん進めていって、時間もあとわずかになってきてしまっているんですが、これからの新潟空港に期待することということで、さっきは出会いの場として広がったらいいなというお話もありましたが、これからの新潟空港に期待することがありましたらお願いしたいと思います。

實石 出会いの場ももちろんそうですが、新潟市街地からすごく近くにあるので、たとえば新潟空港にしかないお店が入っていたり、すごく雰囲気がいいバーがあったりカフェがあったりすればそれを目的に行くので、空港を旅行の一つの手段として利用するのもそうですけど、出かける一つの選択肢になるように発展していったらすごくうれしいなと、利用する側としては思いますね。

司会 中田さんは、いろいろな旅行のプランが増えてほしいという顔をされていますけど。

中田 そうですね。たくさんいろいろなプランをつくっていただいて、本当に世界の玄

関口としての新潟空港。新潟って空港あるっけという感覚ではなくて、新潟に空港ありきと言えるように。5月にはG8もありますので世界各国から要人の方もいらっしゃいますし、より明るく開けた国際空港を心から期待しています。関係者の皆様。

司会 笠井さん。

笠井 行ける国をどんどん広げて行っていただいて、楽しみを増やしてもらいたいなど切に願っております。お願いします。

中村 若者がもっと集えるようになるといいなと思ひまして、外国人と触れられる場所になるのが空港という考え方もあってもいいかなと思ったんですね。新潟にも、ロシアや韓国、中国などのいろいろな国の方がいらっしゃると言うんですけど、そういう方々とコミュニケーションが取れる場があるとか。そうすると、言葉を覚えるのに「空港行く？」みたいなノリで行けるようになるといいのかもしれない。そこでカフェがあればもっと広がるのかな。

中田 出会いがあれば。

中村 そうそう。(笑)

司会 神保さんはいかがでしょう。

神保 便利に行けるとというのが一番ですよ。接続のいいフライトで行きたいですね。時間のある人はいいでしょうけど、皆さん方のように忙しい方が短い時間の中で海外旅行をするということになると、あまりむだのない行程で新潟から行ければ一番理想的だと思うんです。成田に行くには片道で半日くらい費やしてしまいますし、新潟空港からだ、市内だと20分30分あれば来てしまいますし。

あとは、名古屋空港から乗り継いで行く方法や関西空港から乗り継いで行ったりとか、あるいは福岡から乗り継いで行ったり。海外ではソウルから乗り継いでいくといういろいろな方法があると思いますが、接続がいいフライトがたくさんできると、いろいろなツアーが作れるだろうなと思っています。そういう意味では、航空会社さん含めていろいろなご協力がいただけると、新潟空港からいいツアーがたくさん作れるんじゃないかと思っています。

司会 大きな飛行機でできるだけ遠くまで行っておいてということができれば、乗り継ぎが何回もなくて楽ですよ。

神保 飛行機の大きさもあると思いますし、小さな飛行機ですとたくさんの方をツアーに参加させることはできませんが、大きければ大きいただたくさんの方が乗っていただく

チャンスが広がるわけですから、そういう意味では機材も大きいのが来てくれるとありがたいと思いますね。

司会 何だかとても夢が広がりますが、予定にはなかったのですが、せっかくきれいな女性がいらしているので、何か直接、海外旅行関係で、さっきのことをもう少し聞いてみたいというような方はいらっしゃいますか。

質問 **聞き取れず(オフマイク)**

司会 ありがとうございます。どこに住んでみたいかということですが、寶石さん、どうですか。

寶石さん その地域その地域のよさがあってすごく難しいですね。私は海外に行くと日本ですごくいいところだなんて、海外のよさを感じる反面、日本のよさもすごく感じるのです。難しいですけど、もし仕事を終えて住むとしたらカナダに住めたらいいなと思います。私の親戚がカナダに移住していることもあるんですが、私が行った場所がカナダのバンクーバーから飛行機で2時間くらい行ったカムループスという本当に田舎だったのですが、ほどよく人もいて、ほどよく町も栄えていて穏やかな感じで、ゆっくり住むならいいななんて思ったりしました。

日本って素晴らしいですよ。食べ物もおいしいし環境もすごくいいですし、私は海外に行くと日本に帰ってきてよかったなと、いつも空港で思うほうなので。

質問 ニュージーランドは。

寶石 ニュージーランドは行ったことがないんですよ。もし行ってみたら、選択肢に入るかもしれないです。

神保 ニュージーランドですか。私も何回か行った経験はあります。穏やかで自然があって、たぶん日本人には食が向いていると思うんですけど、海産物が豊富です。逆に刺激が少なすぎるので、若い人にとっては物足りなさがあるのかもしれませんが、大自然がたくさん残っている国です。南の島のほうは特にいろいろな自然が残っていますし、何百年前に倒れた木がそのままの森があったり、自然と暮らすという意味では非常にいい国かと思います。非常に質素な生活をしていますから。魚は豊富ですので、食については問題ないだろうと思います。ちょっと日本から遠いですけどね。

中村 オーストラリアとニュージーランドは第2外国語が日本語なので、若者も結構日本語がしゃべれる方が多いんですよ。私もニュージーランドに行ったときに、日本語でこんにちはと返してくれる人が多かったのと、日本食も結構手に入るような状況だったの

で、生活するにはまあまあ。やはり旅先だと日本食に恋いこがれてしまいますからね。そういう部分ではいいのかもしれないですが、日本に帰るときに何回か飛ばなければいけないのでそれもどうかと思いつつながら。

司会 中田さんは、どこに住んでみたいですか。

中田 先ほど質問をされたときにぱっと浮かんだのが、オランダに住んでみたいですね。長くは行ったことはないですけど、旅行で回って、すごく空が高くてお花がきれいで、アムステルダムの町中は大きすぎず小さすぎず。すてきな美術館があったり、ご年配の方にすごく優しい国だと思いました。どこに行ってもお手洗いは手すりが付いていますし、すごく住みいいなと。ちょっとバスで行くと、羊さんがめえめえ鳴いて風車が回って、たくさんお花畑があって、ここで暮らしてみたいと思った場所です。

司会 笠井さんはどうでしょう。

笠井 いろいろ考えて、住むとなるとまた難しいんですけど本当に悩んでしまいました。先ほどあずささんもおっしゃったように、海外に行くと日本のよさも再発見できるんですよ。たとえばハワイに行ったときにいろいろいい経験をしたんですが、食べ物ばかりと大ざっぱで日本がすごく恋しくなったりしたんです。なので、日本にいて旅行というのはまた別で、気持ちをリフレッシュする場所として行動していきたいなというような理想もあったりしますね。

上げるとしますと、思い出が深いアラスカですかね。3歳から5歳まで住んでいたんで、大自然が大好きなんですよね。寒いんですけど、スイスですとかアラスカとか自然がすぐそばにある、感じられる場所にいたいなと思ったりします。ありがとうございます。

司会 中村さん。

中村 私がそれを実現する場合いろいろと条件があるんですけど、日本食が手に入ること。日本語がある程度通じること。ちょっと日本と似通っているものがあることと考えたら、オーストラリアかな。南半球ですけど同じように四季があるので。あと国土が広いので、いま暑いところに行きたい、寒いところに行きたい。ちょっと国内便で飛べば行けるので。海もあるしいかなと。

ニュージーランドとオーストラリアはオイスターがとてもおいしいので。日本のはあたるのかいろいろ言われますが、私もニュージーランドに行ったときに何ピース食べましたかね。オイスターバーというのがそこそこにあるんですよ。これは日本にも勝っているなと本当に思いました。

質問 タヒチはとうですか。

中村 タヒチは新婚旅行だけでいいと思います。(笑)ぐるっと回ったらすぐ見るものも終わってしまうと思いますので。ただゴーギャンなどが生まれた町ですから、そういった芸術もあるんですけどね。

司会 よろしいでしょうか。ありがとうございます。ほかにどなたかいらっしゃいますか。せっかくですので、もしよろしければ。いらっしゃらないみたいですね。ありがとうございます。

では、お時間のほうもそろそろですので最後に一言ずつ。今日はいろいろなお話を聞かせていただきました。いろいろな国の名前も出てきました。皆様方もすごい体験をしているんだなと改めて思われたと思うんです。へーっと思われたと思うんですけれども、皆様方へ最後にメッセージで、海外旅行って本当に楽しいんだよっていうところをもう一度お願いできればと思います。寶石さんからお願いいたします。

寶石 海外旅行というのは日々の生活からちょっと切り離して、まったく別次元に行けるきっかけだと思うんですね。帰ってきたときに、またすごく新たな気持ちで仕事ができたり生活ができたり、生きていくうえですごくいいメリハリになっているなど私は感じています。

もちろん日々の生活を丁寧に生きていくことも大事ですけど、そこから足を伸ばして違った世界を見ることで、戻ってきたときにすごく身近にいいものがあったり、気づかなかったものに気づくことができますので、リセットの意味もあるし視野をドンドン広げていく意味もあって、ぜひ皆さんも海外旅行に、ちょっとしたきっかけで、ちょっとした勇気を持って行かれたらどうかと思います。今日はどうもありがとうございました。(拍手)

司会 中田さん、お願いいたします。

中田 新年度を前に気持ちも新たに頑張らなければいけないのですが、何だか旅行に行きたくなってしまって、いまから夏休みはいつもらえるかなんて考えていたんですが、旅行は自分がリフレッシュできるのと同時に、普段の生活で見失いがちな大切な当たり前のことに気づかせてくれる。新しい発見だけではなくて、自分の本当に大切なもの、いまあるもの、守るべきものもちゃんと気づかせてくれるものだと思います。

旅行なくして私の人生はないくらいで、たぶん皆さんにとっても旅行というのはすばらしいプレゼントだと思います。これがあるから頑張れるというのが、私にとっての海外旅行です。国内も含めて、かもしれませんが。自分へのご褒美に、皆さんもすてきな旅をなさ

ってください。今日は楽しかったです。ありがとうございました。(拍手)

司会 笠井さん、お願いします。

笠井 いまお話がありましたように、海外旅行は心を豊かにしてくれる時間だと思います。日常生活から離れて、海外で新しいものを発見していく。そういった刺激を受けながら、どんな悩みも小さく見えてくるんですね。それによって、帰ってから新しい気持ちで何かに取り組める、頑張れるといった活力にもつながっていくと思うんです。

皆さんお忙しくてなかなか億劫になりがちだと思うんですが、短い時間でも思いきって海外に行ってリフレッシュして、帰ってきたときにはよりよりよい生活が送れることになると思うので、ぜひどんどん海外に行って、いろいろなすてきなものに触れていただきたいと思います。今日は短い時間でしたが、とても楽しい時間でした。ありがとうございました。(拍手)

司会 中村さん、お願いします。

中村 今日は楽しい時間をありがとうございました。いろいろと言いたい放題言わせていただいたんですが、昔は海外旅行に行くのに荷物をつくらなきゃとかいろいろ大変だなと思ったことが多かったのですが、実は気軽にこんなに行けちゃうんだぞというのを、たぶん一度行ってみると、まだ行ったことがない方にとっては行きやすいものなんだなという、国内旅行と一緒にじゃなんて思えると思うので、ぜひ海を越えてみるといいと思います。

早速私は行きたいという気分でエミリーちゃんと一緒にですけど、次はイルカとクジラと一緒に泳ぎたいと思っています。いつ実現するかはわかりませんがね。時間も自分できにかしてつくるもの、なんて自分を戒めて。

中田 姉さん、タヒチもね。

中村 そうね。

中田 頑張ってください。祈っています。

中村 それはもっと先かもしれませんがね。今日はどうもありがとうございました。(拍手)

司会 神保さん。海外旅行が本当に身近になってきていますので、新潟空港からちょっとしたバッグ1個で行って帰ってこられる。手軽な新潟空港の旅のプランをいろいろ設けていただきたいと思うのですが、最後に一言お願いいたします。

神保 皆さんと同じで、海外旅行は本当に身近なものになったと思うんですね。日常生

活にない文化、習慣、言葉に簡単に触れることができますし、触れることによってもう一度自分を見直してみたり、日本のことを考えてみる。そういういいきっかけにもなります。私が行く場合は癒されに行くようなところがあって、人間回復というか疲労回復というか、そういう効果をもたらしてくれるのが海外旅行という気がしています。

先ほどもいろいろとお話させていただいていますが、新潟空港から定期便、経路便、チャーター便の三つの方法で海外旅行ができます。行けないところはないくらい、どこでもつないで行けますので、こんなに身近なところにいい空港があるわけですから、ぜひもっと海外旅行に行ってほしいなど。海外のよさを見て、あるいは海外の悪いところを見て、日本のよさをもう一回認識していただければいいなと思っています。本当に今日はいろいろとありがとうございました。(拍手)

司会 ありがとうございました。これをもちまして座談会は終了となります。メンバーの皆さんが退場となります。どうぞ皆さん、もう一度大きな拍手をお贈りくださいませ。今日はどうもありがとうございました。(拍手)

共催者挨拶

新潟市都市政策部港湾空港課長 阿部 一男 氏

本日は新潟空港の明日を考える会にたくさんの方にお越しいただきまして、本当にありがとうございます。第一部の森川副局長のご講演、第二部のアナウンサーの方々の座談会、いかがでしたでしょうか。

新潟空港は北東アジアのゲートウェイとして、これからもっとたくさんの方にお越しいただき、新潟県内だけではなく県外の皆さんも含めましてもっとたくさんの人にご利用いただくようになっていきたいと考えています。そのためには、新潟空港を利用される皆様一人ひとりにとって使い勝手のいい空港、またエアラインの皆さんにとっても使いやすい空港になるべく関係者一同精一杯頑張っていきたいと思っておりますので、今日ご参集の皆様にも、ぜひご支援をいただきたいと思っております。

本日は、これから第一部、第二部に続きまして、新潟空港で定期便を運航していただいております各エアラインの方々がすてきな景品を用意しておいででございます。これから抽選会が始まりますので、どうぞ最後までお楽しみいただき、また明日から新潟空港をどんどん使っていただくようお願いしたいと思います。本日はたくさんお集まりいただきまして、ありがとうございました。(拍手)